



有松まちづくりの会役員会（9月29日）

「みどり区民まつり」（10/25）で、お日様染のデモンストレーション販売と日本遺産有松のパネル展示をする事とし、担当者を決めました。

日本遺産関係の今後の活動について、まちづくりの会に観光部を設けて、活動の中心を担ってはどうかという提案がありました。10月15日に金沢から27名の視察の方がお見えになり、中濱会長はじめ5名で意見交換します。

劣化が目立つ「ありまつ暖簾」の取替案を検討しました。



まちの風景 山中家住宅

第43回 被服衛生学部会セミナー 有松で開催（8月26日・27日）於：絞会館・久野染工場

（一社）日本家政学会被服衛生学部会のセミナーが開催され、日ごろ服の着心地などを主に研究されている大学の先生方等26名が全国から有松にいらしていました。

26日は絞会館で講演会（一般にも公開）があり、50名ほどが参加されました。「有松絞りの歴史とこれから」をテーマに4氏の講演があり、盛んに質疑応答がありました。講演後は、有松あないびとの会の案内で町並みも散策しました。

27日は久野染工場での絞り体験。雪花絞りの染めに加え、形状記憶の加工にも取り組まれ、有松を満喫されたご様子でした。



「愛知の三河木綿・知多木綿の変遷と伝承」

間瀬清美氏（名古屋葵大学教授）

「有松絞りの今と未来」 山上正晃氏（山上商店）

「日常に寄り添う、有松絞りの新しいかたち」 今井歩氏（cucuri）

「ドイツから見た有松絞り、suzusanの事業」

村瀬弘行氏（suzusan）

〈講演紙上発表〉「有松絞りの今と未来」

※掲載スペースの関係で、山上正晃氏の論考を紹介することとする。

かつて有松絞りは、主に綿素材の浴衣地を対象にした染色技術として発展。小幅の天然繊維に伝統的技法が施された、絵画的な美しさと触感が人気を博した。しかし、近年ではポリエステルなどの合成繊維を用いた広幅生地への対応が求められ、技術革新も進んだ。特に、蜘蛛絞り等を施し、熱処理によって形状記憶させる（ヒートセット加工）ことで洋装や雑貨、インテリア分野への応用を広げている。

〈町並み散策の様子〉

数グループに分かれ山車会館や岡家住宅にも入りました。「①絞りの販売と防火対策が家のつくりを変えた②地産地消で絞りは栄えた（知多木綿・三河木綿・三州瓦・常滑焼など）④桶狭間の戦い⑤捕虜収容所などのことを話した」とガイドのお一人はおっしゃっていました。更に、「皆様は、積極的に見て、聞いて、楽しみ、笑顔いっぱい。講演の内容だけでなく、町並み案内のことも大学や職場で伝えるそうです」とのこと。お別れに撮った写真が満足感を物語っているようです。



有松天満社 秋季大祭 に向けて

■ 山車会館では(9月7日) 展示されている

山車の入れ替えがありました。9時頃、展示の西町神功皇后車が戻り、東町布袋車が山車庫前で人形や大幕等飾り会館に展示。和室では太鼓

等が備えられ稽古の準備は万全のようです。布袋車の説明パネルも新調されていました。

◆ 年行司では(9月6日13日) 6日、文嶺講の皆さんはチラシ、ポスターの制作・配

布や授与品の整理などに忙しく、また13日は、前号で紹介の臥牛制作も行われていました。「頭を作り替えたので、お披露目は遅れそう」と申し訳なさそうな顔の鶴田さん。

■ 天満社では(9月14日) 8:30頃から約1時間の清掃活動。

造営200年を越える社殿の隅々まで水拭き。参道や下の広場そばの車道では、掃き掃除と草取りに汗を流していました。町内会の皆さんを含め100人程が参加され、美しい杜になりました。



MNコロシム ～ 戦う予定などないけどマスクマン展 ～ (8/23,24,30,31)

会場の"六弦とコットン"を訪問したのは初日の23日。馴染み客が後を絶たず。Tシャツについて作家さんとの気の置けないトークが耳に入ってくる。覆面レスラーのグッズ展示販売会。写真左は焼き物、右はアパレル小物でそれぞれの作家さんが制作。少しとぼけたかわいげある作品に満ちていた。



有松絞親子体験教室2025 (8月24日) 於:申申居 主催:NPO法人コンソーシアム有松

昨年に続いての開催。参加者は親子7組15名で、緑区在住。高倍率を超えての参加。どの方も目を輝かせて講師の話聞いていたのが印象的である。

会場の申申居は有松で2番目に古い建物。弘化3年(1846)の墨書が見つかったとのこと。はじめに、主催団体の中村理事長(写真右)より「どうしたら染料が入らないのか、自由な発想で取り組んで欲しい」と挨拶があり、続いて講師の久野剛資氏(写真左・伝統工芸士)より今後の作業の進め方について説明があった。

今後、染めたいものを持参いただくが、①布に糊がついていないか確認→②自由に糸で縛る(写真左)→③容器や袋に入れて染める→④乾燥させ糸を抜く。初回は、配ったトートバッグを"おひさま染め*"するとのこと。写真右は完成見本。染色は各自持ち帰って行うこともあり、質問が多く出された。



* 日光発色による絞り染め。染料を水に入れるだけでできる。

説明後、参加者の皆さんは工夫しながら糸でバッグを括っていた。

本講座は連続5回の教室。①8/24②9/15③10/13④11/3⑤11/24

一言 絞り染め体験は有松を救う!

9月下旬になり観光客が少しずつ増える中、東京のある会社の研修旅行をご案内。町並みガイドの後、絞り体験。28人の多くの口から「楽し〜い」「素敵なのが出来た」の声。満面の笑み。講師の久野剛資氏の指導の巧みさもだが、絞り体験は観光客を有松の虜にする。



東陵中学校 藝術文化探求部企画 藝探展 (9月13日～10月26日) 於:川村家東蔵・岡家住宅

開催初日、小雨の中両会場を訪ねた。3回目となる今回の展示会では、自分たちの作品を中心に展示したという。「それぞれが芸術だと思うものを探究する」部活動らしく、幅広い様々な作品が会場を満たしていた。両会場には説明役の生徒さんもあり、活動への意欲が伝わってくる。東蔵(写真左)では"秋のブンカサイ"で展示する「灯り」の制作が、岡家住宅(写真右)の作業場には「巨大迷路」が掲げられ、3年前の国際芸術祭を思い起こさせる企画もあった。



第18回 寿限無茶屋で上方落語 九雀亭 (9月7日)

参加者28名。会場の座敷はほぼ満席、笑い声の絶えないひと時でした。演目は3題、「兵庫船」「堀川」「はてなの茶碗」。お囃子と笛が効果的でした。挨拶の中で、「九雀亭」が始められた理由が分かりました。有松小を卒業後、大阪に移り住み、やがて噺家に。同窓生達が「本当に落語やっているのか確かめよう」と始まったとのこと。毎回、同窓生たちが受付などをされており、絆の深さにも魅了されます。



次回予告 日時 2026年3月1日(日)15時～ 会場 寿限無茶屋

有松町家ライブ トワイライト JAZZライブ (9月21日)

今年も有松にやってきてくださいました。多くのファンを引き連れての有松ライブ、町の活性化に一肌脱いでくださる姿勢に感謝です。中央ヴォーカルの尾崎真希をピアノ・鍵盤ハーモニカのナタリー成田とベースの福田義明が支える構図。尾崎の絞り柄ドレスが奥庭に映える。参加45名。



歴史講座「あないびとが伝える有松の魅力」講師 加藤明美氏(9月21日) 於:緑図書館

「有松ファンを増やしたい」との講師の想いがよく表れた会でした。始めに、400年以上に渡る有松の歴史を、有松あないびとの会制作の紙芝居「庄九郎と仲間たち」①と「戦争の時代～お灸と指輪～」②を活用することで分かりやすく紹介。更に有松を印象付けるために、有松の3つの宝[絞り][町並み][山車]のうち絞りに焦点を当て、実物持参で説明されていた。説明は多岐にわたり、有松を知りたい参加者にとってはまたとない機会だったようだ。・・最後に、6年前「日本遺産」に認定された有松の現状、文化庁の「再審査」にも触れ、今日的課題にも言及された。参加者の多くを有松ファンにしたようだ。



紙芝居 ↑



捕虜の軍医から贈られた指輪⇒

注① 有松開村と有松絞り誕生の物語

② 有松駅近くにあった捕虜収容所での診察医と捕虜の軍医との友情物語 (①②とも 文:浅野康子 絵:福岡友一)

秋の行楽シーズン、多くの方が有松に来られることを願う。

㊥舩屋に車突っ込む (8月31日)

11時ころ、旧東海道を東に向けて走行中の軽自動車運転が運転を誤り、㊥舩屋に突っ込みました。車は"六弦とコットン"の店先に置かれている珈琲屋台のボックスを壊し、更に東の軒柱を折り停車。珈琲屋台で作業していた方は、「けがせず良かったです。車内の地図を見ていて事故を起こしたようです」と当時の状況を説明して下さいました。写真は珈琲屋台を作り直しているところ。以前の半分くらいの大きさです。事故の怖さを感じているのかもしれませんが。かなり昔、向かいの井桁屋にも車が突っ込んだことがあったことを思い出しました。けが人が出ず幸いでした。



紹介 ヒーローズコミック ふらっと ソラ/ヤ01

有馬ツカサ

小学館クリエイティブ

前号で紹介の有馬ツカサさん。今年の山車まつりアニメポスターを作ってくださった方です。彼女の作品を読む機会がありましたので紹介します。あらすじは下記の通りです。

初めてのオリジナル作品を出すにあたって、これまでスポーツ物であまり描かれることのなかったアーチェリーを選び、実際に体験されたことが"あとがき"に記されています。そのことが、作品を真っ直ぐな爽快感あるものに仕上げています。

また、作品の舞台"藍河町"は彼女の地元有松をモデルにしています。伝統的な建造物を背景に描いているページもあります。

是非手に取っていただけると嬉しいです。



運動が苦手な四谷翼咲。
高校では心機一転、運動部に挑戦しようと思っただけのシンプルな動作。
これならできるかもと思った翼咲は、クラスメイトの宝楽六華とともにアーチェリー部へ。
ひたむきに、楽しく、全力で！
アーチェリーに打ち込む翼咲たちの一射入魂物語、スタート！



作品は六弦とコットンに展示
つるし飾り作家
浅野外美江

～ 秋の有松フンカサイ紹介 ～

- ◆ 「絞」「瓦」灯りストリート 10/20(月)～26(日) 17:00～21:00 山与遊歩道
- ◆ 有松ミチアカリ 10/25(土)26(日) 17:30～20:00 有松東海道西町・祇園寺境内
- ◆ 徳川家ゆかりのお茶室でお抹茶を一品 10/25(土)26(日) 10:00～16:00 竹田家茶室「栽松庵」
- ◆ 有松寄席 笑いとお話と落語会 駒久家南朝 10/25(土) 16:00 竹田家3番蔵
- ◆ いけばなストリート展2025 10/25(土)26(日) 10:00～17:00 有松東海道一帯・竹田家住宅内
- ◆ 参加型いけばな(無料・花が無くなり次第終了) 10/25(土)26(日) 10:00～14:00 (受付：中濱商店駐車場)
- ◆ ジャコランタン作り体験(要予約) 10/26(日)①10:00～②10:40～③11:20～④13:00～⑤13:40～⑥14:20～
川村家中庭(雨天時のみ岡家住宅)
- ◆ 茶の湯と津軽三味線ライブ 10/25(土) ①10:00～②10:45～③13:00～④13:45～ 棚橋家住宅
- ◆ ピアノ尺八INFINITY藍の色、あい音 10/26(日) 14:00～ 棚橋家住宅
- ◆ アリマツマーケット 10/26(日) 10:00～16:00 有松天満社・モスアリマツ

催事・行事予定

- 10月5日(日) 9:30 有松天満社秋季大祭
- 10月20日(月) 18:00 有松町並み相談会
- 10月25日(土) 10:00 みどりシティフェスティバル 大高緑地公園
- 10月26日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 10月27日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊
有松まちづくりの会は新規会員を募集しています。(年会費1000円)

詳しくはホームページ又はお近くの会員までお問い合わせください。

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

「有松かわら版」をカラーでご覧いただけます。

● 有松天満社 七五三 ●

日時 令和7年11月25日(火)
13時より15時

初穂料 お一人様 5,000円

授与品 お守り・千歳飴 ほか

お申込締切日 11月24日(月)

秋季大祭10/5でも受付いたします

お申込 QRコード 052-621-8410

atenmansha@gmail.com



《編集後記》6年前日本遺産に認定された有松が「再審査」に揺れている。先日文化庁からこれまでの取り組み状況の評価が出されたからだ。有松まちづくりの会の果たすべき役割は何か再度考える機会としたい。